

『千葉市動物公園のご紹介』

～動物園の歴史的経緯や課題、社会的役割を踏まえた
再生・発展への取り組みについて～

千葉市動物公園 園長 鈴木一誠

【レジュメ】

1. 千葉市動物公園の概要

- 1985 年（昭和 60 年）4 月 公設公営施設として開園
- 設立の目的
「人間の生活にかかわりのある動物とのふれあいを通じて、楽しみながら自然に動物の生態を学べる家族ぐるみの、レクリエーションの場として整備」
～動物園が持つ機能に、公園的要素を加え、市民の憩いの場として設立～
- 特徴
 - ① 特徴ある飼育・展示動物 104 種 539 点 ※令和 5 年 12 月末時点
・ワシントン条約附属書Ⅰ類・Ⅱ類対象種が約半数
・我が国屈指の霊長目の飼育数 20 種
～園のシンボルマークは絶滅危惧種ゴリラ
我が国における千葉市の所有個体:6/20 頭
・チーター(7 頭)をフランス・ノルウェー・チェコから導入(令和 2 年)
～新たな血統導入による繁殖貢献～
・レッサーパンダ 風太が 20 歳に(令和 5 年 7 月)
～動物福祉をテーマとしたクラウドファンディングの実施～
 - ② 世界動物園水族館協会（WAZA）直接加盟園
～日本での直接加盟は 10 団体のみ～
 - ③ 緑豊かで広大な公園：管理面積 約 34 万㎡（東京ドームの約 7 倍）
～100 種超の樹木・桜の名所～
- 再生への取り組み
 - ① 2014 年（平成 26 年）再生基本プラン「リスタート構想」公表
“開園 50 周年(2035 年・令和 17 年)年間来園者数 100 万人をめざす”
 - ② 新たなゾーニング(生息環境＋地域の組合せ)による再整備
平原ゾーン・湿原ゾーン・森林ゾーン
子どもゾーン(ふれあい動物の里)・大池

平成 28 年：ライオン導入・展示場オープン
平成 30 年：ミイアキョウ展示場リニューアル
令和 2 年：チーター・ブチハイエナ導入・展示場オープン

令和 3 年：シマウマ・ヤマアラシ展示場オープン
※平原ゾーンの新規整備完了
令和 4 年：動物科学館改修設計（テーマ：熱帯雨林）
令和 5 年：湿原・森林ゾーン基本計画策定
(公財)イオン環境財団と連携協定締結
“大池”生態調査・整備計画策定着手
動物科学館改修着工（テーマ：熱帯雨林）
※令和 7 年春リニューアルオープン予定
なぜ動物園が“熱帯雨林”をテーマに？
「熱帯雨林を知り、学び、ともに共存する」

2. 動物園ってなんだ？

- 動物園の歴史的経緯
王侯貴族・特権階級の珍獣収集の歴史
～大航海時代・植民地主義・帝国主義のかげりをもたう～
“メナジェリー”から“ZOO”へ
ヴェルサイユ禽獣園
シェンブルン禽獣園
フランス国立自然史博物館
ロンドン動物園

近代動物園の 2 大条件
 - ① 王侯貴族・特権階級からの脱却・市民への開放
 - ② 科学的基盤
→ “支配の誇示”から“世界のあり様を考える機会の提供”
“生態的展示（生息環境展示・行動展示）”
“保全センター”**動物園＝生物科学の博物館**
- 我が国における動物園の歴史
慶応 2 年（1866 年）
福沢諭吉「西洋事情」において“動物園”の名称が初登場
明治 5 年（1872 年）
初の博覧会開催 @東京・湯島聖堂大成殿
～令和 4 年 東京国立博物館創立 150 周年の起点
明治 6 年（1873 年）
「大博物館創設の建議」
明治 15 年（1882 年）
博物館付属施設として「上野動物園」開設

我が国の動物園の果たしてきた役割
～子育て支援・思い出づくりと動物の実在を確認する場～
- 動物園の課題
法的位置づけの希薄さ(法律上の定義なし)
展示・経営等の持続と・保全等への貢献
“動物園の動物はどこから？”
“動物福祉”（動物の心身の状態）の向上
SDGs・ネイチャーポジティブ 等への主体的取り組み 他
- 動物園の社会的役割
「種の保存」「調査・研究」「教育・環境教育」「レクリエーション」
“動物福祉”（動物の心身の状態 QOL 向上）
“環境エンリッチメント”
（動物福祉の立場から、飼育動物の“幸福な暮らし”を
実現するための具体的な方策）
“科学的基盤(評価)”
- 動物園とは・・・
 - ① 生物多様性の保全の実践の場 “生息域外保全”
 - ② 生きた野生動物の展示を通して、
・野生動物の体の仕組みや生態の魅力を伝える
・動物や自然に関する文化・芸術・科学に触れる
・生物多様性や共生の重要性、命を取り巻く課題、野生動物を含む
自然環境、ひいては地球全体を守る事への気づきや関心、学びに繋がる
情報の発信と体験を提供する“生涯学習の場”

3. 千葉市動物公園の基本方針

「驚きと感動、憩いと癒し、学びの場としての発展」
～動物園としての 4 つの役割の発展と公園機能の充実による再生～

- ① 科学的視点を基盤に“調査・研究”、学びを核とした成長
- ② 時代に即した発展の志向
- ③ 新たな顧客体験の創出
- ④ 他施設・他団体（学校・学術団体・企業など）との連携強化

4. 主な取り組み事例の紹介

- 4-1 「共創」「協創」をテーマとした新たな寄付制度の導入 「amazon ほしい物リスト」
- 4-2 ICT の活用 インターネットと先端技術の活用による新たな動物ガイドの構築と
新たな教育カリキュラムの開発
～院内学級・様々な福祉施設向けプログラムの創出～
- 4-3 企業・学術団体との連携による新たな価値創造（実証実験から実装へ）
 - ① AI を活用した動物生態の見える化
 - ② 自動運転技術の活用
 - ③ 環境エンリッチメントへの IoT 活用 “Cybernetics in ZOO”
 - ④ 環境低負荷システムの開発
 - ⑤ 来園者動向の AI 分析による来園者サービスの向上と経営改善
 - ⑥ 糞尿処理のエコ化
 - ⑦ ゴミ箱のスマート化 他
- 4-4 動物や自然に関連した文芸・芸術の体験
 - ① 「動物園で浪曲」
・文化庁芸術祭新人賞受賞浪曲師による「シートン動物記」の浪曲体験
 - ② 「動物園で考古学」
・現代の生活様式の礎に繋がる縄文人の生活の営みから学ぶ
・古のヒトと動物の関わり、現代の課題を考える
- 4-5 集客施設と連携した新たな人流創出と回遊促進策の実施～
 - ① JR・ペリエ・そごう・幕張新都心ホテル協議会他との連携イベント
 - ② “年間パスポート”連携パートナーシップ”
- 4-6 IT サービスやコミュニケーションツールの活用強化
SNS・YouTube・公式アプリ・LINE スタンプ 他
- 4-7 「調査・研究」「教育・環境教育」についての包括的活動強化
～園主体の取り組み強化と学校学術団体・企業等との連携拡大・深耕～
「アカデミア・アニマリウム」（“動物をめぐる学術の場”）の推進
- 4-8 その他
 - ① 「屠体給餌プロジェクト」
動物福祉×害獣問題による課題対策の具体化と学術検証
～クラウドファンディングによる啓発活動と支援の呼びかけ～
 - ② 「オンラインサファリ”Live Safari from South Africa”」
動物園 “自然への入口”“動物の故郷へつながる場”
南アとインターネットで繋ぎ、サファリをライブ体験
～アフリカの今を体感し、課題を知り、必要な行動変容を起こす～
 - ③ “ちばアントレプレナーシップ 教育コンソーシアム”
～小中学生の起業家精神を育むプログラム提供～

より愛され、より親しまれる園を目指して！

ご支援とご協力をお願いするとともに、ご来園を心よりお待ちしております！

ご清聴ありがとうございました。

